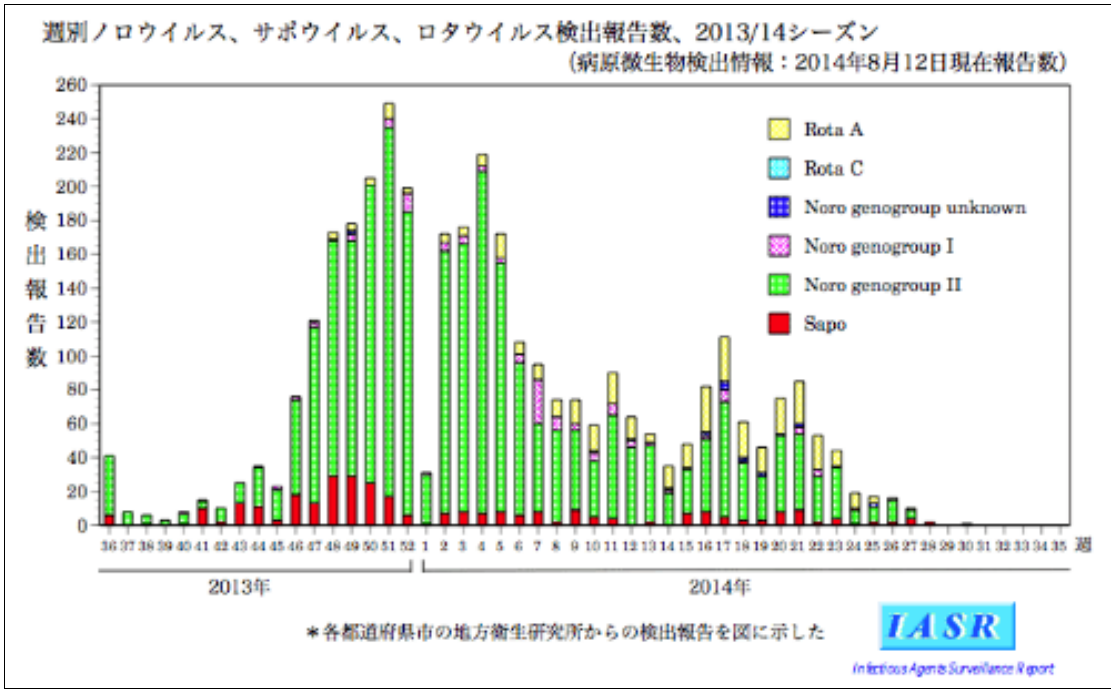
ノロウイルスは、カリシウイルス科のノロウイルス属に分類されるＲＮＡウイルスでその中で人に病原性を有するものは、ノロウイルス属とサボウイルス属の２つです。
遺伝子は大きく分けて２つの遺伝子群 Genogroup Ⅰ （ＧⅠ）と GenogroupⅡ（ＧⅡ）があります。
我が国での感染性胃腸炎の流行の大部分はＧⅡが原因であると言われています。




感染経路

感染経路のほとんどが経口感染で、以下のような感染様式があると考えられています。

（１） 患者のノロウイルスが大量に含まれる糞便や吐物から人の手などを介して二次感染した場合
（２） 過程や共同生活施設などヒト同士の接触する機会が多いところで、ヒトからヒトへ飛沫感染後直接感染する場合
（３） 食品取扱者（食品の製造等に従事する者、飲食店における調理従事者、家庭で調理を行う者などを含む）が感染しており、その者を介して汚染した食品を食べた場合
（４）汚染されていた二枚貝を、生あるいは十分に過熱調理しないで食べた場合
（５）ノロウイルスに汚染された井戸水や簡易水道を消毒不十分で摂取した場合　など

国内でのノロウイルス感染による死者

病院や社会福祉施設で、ノロウイルス集団発生時期に、当該施設で死者が出たことがあります。
体力の低下や吐物を誤嚥した誤嚥性肺炎や吐物を喉に詰まらせて窒息したことによるものなどと言われています。

老人施設で食中毒、トイレがノロイウルス汚染を拡げた？！

●事件の概要

2010 年 11 月、東京都内の老人ホームで、施設の食事を原因の発症者 37 人のノロウイルス食中毒が発生しました。検査の結果、患者糞便（13 人／16 人中）、調理従事者（5 人／16 人中）、トイレの拭き取り（4 検体／5 検体中）からノロウイルスＧⅡが検出されました。

原因食はりんごの可能性が最も高い結果になりました。

ノロイウルスは調理従事者専用トイレから拡がった！

●トイレで嘔吐・下痢した調理従事者は清掃後早帰り

調理従事者からの聞き取りで、朝晩ホール担当者が早朝６時に出勤、出勤時から腹痛があり、８時３０

分頃に調理従事者専用のトイレで下痢・嘔吐をした後、本人が手袋をして洗剤とアルコールで便座、便器、床を清掃していたことがわかりました。本人は、嘔吐後直ぐに早退していました。

●その後出勤した調理従事者が嘔吐を知らずにトイレを使用

その後の調査で嘔吐した１名を含めて５人からノロウイルスＧⅡを検出しました。内、１名がりんごの処理作業に従事していました。

事故後の検査で、トイレドアノブ、便器の蓋・便座表裏、トイレの内床・壁、フラッシュバルブから多量のノロイウルスを検出しています。

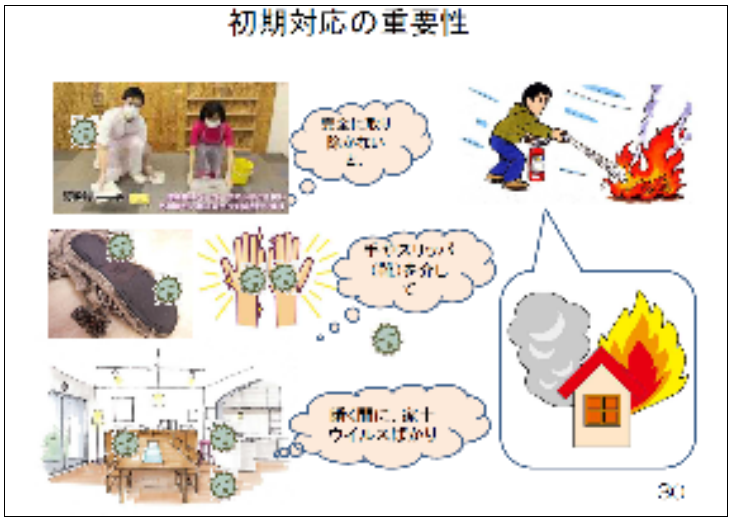
浜松市内の学校給食大規模食中毒

2014 年 1 月 15 日、浜松市内の小学校で摂取者数 8,027 名、患者数 1,271 名の大型食中毒が発生しました。原因食品は、提供された食パンと断定されノロウイルスＧⅡが検出されました。

原因施設および従事者の調査

食パンは 200℃50 分の焼成工程があるため、原因は焼成工程以降と考えられました。

この製パン施設では、パンのスライス後、食パンを１枚１枚手に取り、異物の確認をしていました。

この入念な作業がノロウイルスを拡げたと考えられます。

拭き取り検査の結果、食パン製造従事者・給食調理従事者の検便の他、食パン製造所の作業服、トイレのスリッパ、給食室の移動式作業台からもノロウイルスを検出しています。